



リニユーアルされ、拡大された
リサイクルボックス

資源物回収を強化

アマルク 常設施設など刷新

リサイクル業の荒川産業（喜多方市）は9日、郡山市富久山町の事業所「アマルク郡山」と資源回収の常設施設「アマルクリサイクルボックス」のリニユーアルを記念して落成式を行い、関係者らが完成を祝った。

業を中心に事業を展開しており、「アマルク郡山」は2015年10月に開設した。今回は事業所などを刷新。24時間365日資源物を受け入れるリサイクルボックスを拡大し、1日300〜400キの回収量が5〜6倍になる見込み。

川健吉社長や品川萬里市長らが出席。荒川社長は県民1人が1日当たり排出するごみの量が全国ワーストであることに触れ「私たちの働きかけをきっかけに、逆に全国トップテンを狙えるようにしたい」と述べた。事業所の営業時間は午前8時〜午後5時。日曜日、祝日は定休。リサイクルボックスは缶、新聞などを受け入れている。ガラス製品、ペットボトルは不可。問い合わせは同事業所（電話024・9833・1211）へ。

同社は喜多方市や会津若松市、郡山市などで鉄や非鉄金属の回収、リサイクル

落成式では神事とテープカットが行われ、同社の荒